

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本覚寺苑	代表者	理事長 三木啓康	法人・ 事業所 の特徴	法人は昭和 49 年に設立。特別養護老人ホームやデイサービス・グループホームに加え居宅介護支援事業所や姫路市より委託を受け地域包括支援センターを運営。地域密着型事業として、地域交流を含め、ご利用者の能力に応じた調理や園芸などの趣味活動等を展開し、住み慣れた地域と自宅での生活が継続出来るよう支援している
事業所名	小規模多機能 ホーム花田	管理者	奥田和真		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	1人	1人	2人	1人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			・コロナ禍であっても職員が前向きに活動しており、利用者やその家族と積極的に関わろうとしていた	
B. 事業所のしつらえ・環境	「その人にあったように個々の時間が過ごせられるような工夫を継続していく」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の時間が確保されるよう、居室や和室、ソファなど空間を柔軟に提供している</li> <li>・利用者へ家事活動の提供等を行い、したいことの実現へ向けて取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の施錠に関して、防犯上及び利用者の安全確保の観点から不可欠</li> <li>・玄関の施錠はあっても、明るい空間作りや、応対する職員も明るく迎えてくれ入りやすい</li> </ul>	
C. 事業所と地域のかかわり	「現在も見学等が難しい状況下において、事業所内での活動が確認出来る工夫を続けていく」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌や法人でのホームページ内で活動が確認でき、適宜更新している</li> <li>・事業所外に二次元バーコードを張り出しており、気軽に事業所での活動が確認できるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍もあり、家族が面談等しにくい状況もあったが、事業所からの報告はもちろん、広報誌などでも活動が十分に確認できて安心していた</li> <li>・福祉施設としては認識されていると思う</li> <li>・福祉の相談窓口として地域包括への相談はあるが、地域の事業所としても気軽に相談の出来る窓口としてPRを検討してはどうか</li> </ul>	地域に根差した福祉事業所として、気軽な相談窓口であることをPRしていく
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な運営推進会議がなされており、地域活動として秋祭りや正月の祝いなどの開催の案内もしている</li> <li>・次年度の地域活動に関しては未</li> </ul>	

			定なところもあるが、開催時などにおいては会議の場などでも情報交換や共有が図れる	
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の検討や取り組みなどが十分に説明されている</li> <li>・会議内で出た意見が改善につながられており、空間作りなどを含め工夫されていた</li> </ul>	
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の南側に緊急時の水タンクがある。これらの資源も共有していけたら</li> <li>・BCPの内容として、今後も地域での資源などを盛り込んでいければいいと思う。また事業所の資源も地域に伝わればいいと思う</li> </ul>	BCP において事業所・法人で作成した内容を運営推進会議にて公表し、地域代表者からの意見を聴取していく